

がんばれ! 宮本智さん

さとみ

- 宇都宮けんじ
日本弁護士連合会元会長
- 弓仲 忠昭
弁護士・たんぼ法律事務所
- 清水 洋二
弁護士・東京HIV訴訟弁護団長
- 八坂 玄功
弁護士・しいの木法律事務所
- 渡部 照子
弁護士・代々木総合法律事務所
- 矢田部 理
弁護士・東海第2原発訴訟弁護団
- 梓澤 和幸
弁護士
- 加藤 晋介
弁護士
- 佐藤 むつみ
弁護士
- 竹内 隆
医師・医療法人ルーク会理事長
- 伊東 繁
小児科医師

- 山田 智
医師・医療法人社団健友会理事長
中野共立病院長
- 田中 義信
全国B型肝炎訴訟原告団全国代表
- 圓山 早苗
元中野教育委員
- 井佐 哲郎
脱原発運動グループメンバー
- 藤波 辰爾
プロレスラー
- 佐々木 祐滋
シンガーソングライター
- 小林 伴子
フラメンコ舞踊家
- 辛 淑玉
TRAI主宰
- 湖東 京至
税理士・元静岡大学教授
- 伊藤 成彦
元中央大学教授
- 鎌倉 孝夫
元埼玉大学教授



中野を変える運動を進める会のロゴマークです。

現区長 多選自粛の約束 またもホゴ

▶現区長は、12年前初めて区長選に出るとき「区長の任期は2期8年」に限定すべきだと主張 ▶ところが任期中に「3期12年まで」の条例をつくり、3度目の区長選に ▶「3期12年」になると、今度は、「やり残した仕事があるから」と4たび出馬表明 ▶「自分で言い出した約束も守れないのか」と、街のあちこちで不信の声があがっています。

Q 区民の声がいきるまち・中野の会

「弱者の味方」つらぬいて

人権弁護士・宮本智(さとみ)ものがたり



- 1947年、昭島市に長男として生まれる。妹2人。
- 中・高校時代、弁護士ドラマ『ペリー・メイスン』『帽子とひまわり』などを観て、弱者の味方として権力とたたかう弁護士にあこがれる。
- '67年早大第1法学部へ。大学民主化、ベトナム戦争反対、学費値上げ反対の運動に参加。勉学に、アルバイトに、学生運動にと多忙な4年間を送る。



写真屋の息子として



- ニチバン(セロテープで有名)に入社。労働組合で青年婦人部長として教育宣伝を担当。機関紙『青婦の力』を発行。青年・女性労働者の権利や労働条件の改善をめざす運動の先頭に。
- 職場結婚。

- 組合活動を続けるうち、司法試験挑戦を改めて決意。会社を退職。'77年、司法試験に合格。
- 千代田区の旬報法律事務所に所属、弁護士生活に踏み出し、数々の労働争議、安中公害訴訟等に取り組む。
- '90年、新宿に法律事務所を開設し現在に至る。
- 東京都・民間労働相談員、法務省・人権擁護委員など歴任。



人権と民主主義を守るための街頭宣伝('88年、夜の地下鉄駅前)



「区民の声の先頭に立つ」と、この1月決意を表明

- 上鷺宮に転居。当時の中野は、区民が教育委員を選ぶ区民投票、福祉や平和都市の宣言など、永く住まうにふさわしい地に思えた。
- 上鷺宮の環境を悪化させる道路拡張計画等、地域の声を無視した計画を、住民とともに中止させる。

いきるまちニュース 2014年4月号外 会と宮本智さんの見解を紹介します。
発行:区民の声がいきるまち・中野の会/中野区南台2-32-1(江原方)/問合せ先:080-5895-3746(塚本)

命・くらしイチバン! 変えよう中野

くらしイチバンは
宮本さんがイチバン!



日本弁護士連合会元会長
宇都宮けんじ



弁護士
宮本智 さとみ

「くらしがきつい」「日本も戦争する国に?」…安倍政権下でくらしも平和も脅かされ、区政までが区役所・サンプラザ解体などの大型再開発計画に熱中、区民のための事業を廃止・削減し、区民負担増を進めています。政府に同調する区民に冷たい区政でいいのでしょうか?

かつて中野区は、子育てに手厚く福祉が充実しているからとの転入者が珍しくありませんでした。「憲法をくらしに」——悪政から区民を守る、あたたかい区政を取り戻そうではありませんか。



区民が主人公の中野をめざす宮本智5つの提案

みやもと さとみ

1. 区民が主役、住民の声が生きる仕組みづくり

現区長の区政運営は、説明会も対話集会も意見公募も、実態は一方的な方針・計画の押しつけです。環境リサイクルプラザや高齢者福祉センターなどから区民をしめ出し施設を業者に貸し付ける不動産業者化。幹部職員のタイムカード不正打刻、非常勤保育士の不当解雇、警察大学校等跡地開発をめぐる裁判…区政の歪みはひどすぎます。

●区政を転換します。

- 15の区民活動センターの機能を拡充し、住民の防災・くらし・自主活動への支援を強化
- 区民と区、双方向の意見交換会や意見公募。地域や各分野の意見が反映する仕組みの再構築



裁判で争われた警大跡地。再開発前の豊かな緑（'95年）

2. 憲法25条を生かし、安心の医療・福祉・生業を

区は「自助・共助」を前面に、区の責任と役割を放棄。施設の廃止、民間への業務丸投げ、国保料や後期高齢者医療保険料の値上げ、介護保険は負担増とサービス削減。くらし・福祉に不可欠な事業も廃止・削減し続けています。

●区政を転換します。

- 特養ホームなど介護施設の増設
- 国保料、介護保険料・サービス利用料の軽減



- 障害者福祉手当(第2種)の拡充
- 中小零細企業の支援。公共事業の賃金を保障する公契約条例の制定
- 青年の就労支援。非正規・ブラック企業従業員の無料法律相談
- 商店街の活性化へ、空き店舗利用の自主グループ等への起業支援

3. 子育てと伸びやかな教育の中野

待機児が年々増えるのに、区は認可保育園増設には本腰を入れません。就学援助対象の縮小、社会科見学・遠足代補助の廃止、保育料も値上げ。小中学校の乱暴な統廃合を進め、少人数学級にも背を向けたままです。地域住民との約束を破り、避難場所である旧東中野小学校跡地の売却を突然打ち出しました。

●区政を転換します。

- 認可保育園の増設。児童館(U18プラザ)の小学校地域での確保
- 就学援助の拡充など子育て世代への支援
- 公園や子ども関連施設・給食の放射能測定の実施
- 少人数学級をすすめ、学び教える喜びにあふれた学校づくり
- 教育委員会制度の改悪反対。教育現場の自主性尊重



待機児ゼロへ認可保育園増設を求めるパレード

4. 大型開発偏重を改め、防災と緑のまちづくり

区は「財政が厳しい」と区民負担を押しつける一方で、基金を400億円

も積み立て、大型開発に熱中。「耐震上問題ない」とする区役所・サンプラザを解体、跡地を開発業者に提供し、中野駅周辺再開発を進めようとしています。

●区政を転換します。

- 区役所・サンプラザの解体・一休開放ストップ。区民参加で「中野駅周辺まちづくり」の見直し
- 住民参加で計画する災害に強い緑のまちづくり
- 交通不便地域の解消。コミュニティバスの復活・充実
- 木造住宅耐震補強工事助成の実施。個人住宅等への太陽光パネル設置助成



中野のシンボルとして知られたるサンプラザ。左は区役所

5. 「憲法を生かそうくらしに中野のまちに」を本物に

現区長は「憲法9条2項は変えてもいい」と憲法の平和条項を敵視、現在の平和は「核抑止力によって成り立っている」という認識を示すなど憲法擁護・非核都市宣言の趣旨をねじ曲げ、見直しまで示唆しています。

●区政を転換します。

- 『憲法擁護・非核都市宣言』『平和行政基本条例』にふさわしい憲法記念行事の開催。
- 児童・生徒の平和学習の旅(広島・長崎・沖縄)の実施
- 女性副区長の実現



平和とくらしを守る中野集会の区民パレード

「集団的自衛権」への憲法解釈許すな

即時「原発ゼロ」へ

消費税増税反対

秘密保護法撤廃

正規雇用拡充